

### 3. 越智委員プレゼンテーション資料

大腿骨頸部骨折の発生頻度および  
受傷状況に関する全国調査研究  
—1998-2001年の集計—

日本整形外科学会骨粗鬆症委員会

発表者 越智隆弘

調査対象施設と回答率

	1998年	1999年	2000年	2001年
日整会認定 研修施設	53.7% (2270)	55.6% (2264)	46.0% (2312)	51.5% (2291)
臨床整形外科医会 有床診療所	40.5% (1529)	54.4% (1430)	48.5% (1512)	55.4% (1493)
total	48.4%	55.1%	47.0%	53.0%

( )内は調査対象施設数

(1998-2001 JOA Survey)

日整会大腿骨頸部骨折調査結果  
1998 - 2001

登録患者数 (35歳以上)

調査年	合計	男性	女性	内側	外側
1998	36,226	7,761	28,275	15,767	20,111
1999	40,069	8,556	31,253	17,208	22,362
2000	34,452	7,351	26,889	14,878	19,159
2001	44,469	9,193	35,097	19,027	24,926
計	155,216	32,861	121,514	66,880	86,558

(1998-2001 JOA)

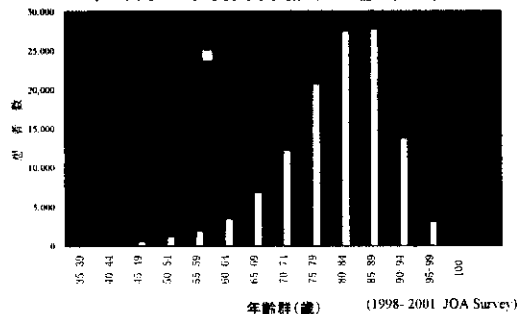
調査年ごとの平均年齢

	1998年	1999年	2000年	2001年
全体	78.7	79.2	79.4	79.6
内側骨折	76.5	76.9	77.2	77.3
外側骨折	80.5	80.7	81.0	81.1

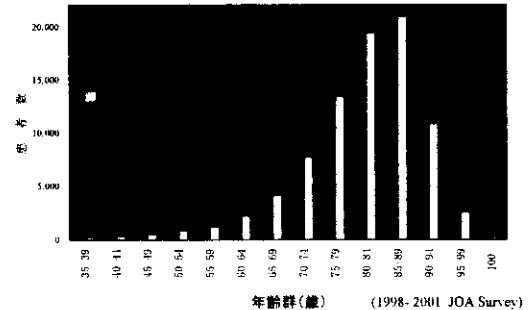
(35歳以上の症例の平均)

(1998-2001 JOA Survey)

性別・年齢階級別患者数



骨折型別・年齢階級別患者数



## 大腿骨頸部骨折患者の受傷側

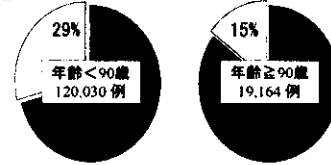
	1998年	1999年	2000年	2001年
右	17,552	19,375	16,786	21,650
左	18,379	20,253	17,458	22,565
両側	153	378	364	473

(35歳以上の症例)

(1998-2001 JOA Survey)

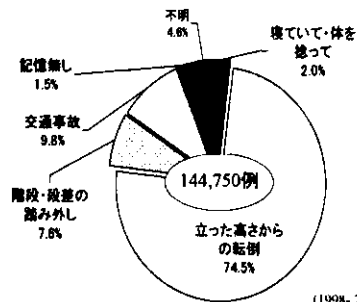
## 受傷場所

■ 屋内 □ 屋外



(1998-2000 JOA Survey)

## 受傷の原因



(1998-2000 JOA Survey)

## 大腿骨頸部骨折の治療

	内側	外側
保存	4,438 (6.8%)	5,128 (6.0%)
観血	61,228 (93.2%)	80,393 (94.0%)
人工骨頭置換	44,766 (73.1%)	1,446 (1.8%)
骨接合	18,067 (26.2%)	78,416 (97.5%)
不明	395 (0.6%)	531 (0.7%)

(1998-2001 JOA Survey)

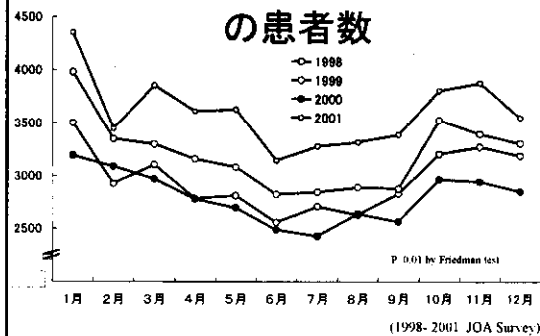
## 入院期間

	1998年	1999年	2000年	2001年
全体	1-353日 (平均54.8)	1-363日 (平均58.5)	1-360日 (平均55.9)	1-364日 (平均53.4)
内側	56.0	58.6	55.8	53.2
外側	54.8	58.4	56.0	53.5
< 90歳	56.0	59.7	56.2	54.0
≥ 90歳	49.4	54.1	53.0	49.9

(1998年は上・下半期に分けて調査したため入院日数は比較できない。)

(1998-2001 JOA Survey)

## 大腿骨頸部骨折受傷月別の患者数



(1998-2001 JOA Survey)

大腿骨頸部骨折の治療実体  
に関する研究  
一定点観測結果の集計一

目的

大腿骨頸部骨折治療を中心的に行っている施設を定点観測病院として選択し、大腿骨頸部骨折の予後を含めた詳細を、経年的に調査すること

定点観測調査施設数

都道府県	観測病院	都道府県	観測病院	都道府県	観測病院	都道府県	観測病院
北海道	6	千葉県	3	奈良	2	宮内	2
青森	2	東京都	14	広島	2	愛媛	2
秋田	2	神奈川県	19	京都	5	高知	2
山形	2	山梨	1	兵庫	7	福岡	8
福井	2	静岡	7	大分	7	佐賀	2
富山	2	長野	1	和歌山	2	長崎	2
福島	2	茨城	4	徳島	2	熊本	2
新潟	2	石川	3	香取	3	大分	2
群馬	2	福井	2	鳥取	2	宮崎	2
栃木	1	愛知	3	島根	1	鹿児島	2
茨城	6	岐阜	4	山口	3	沖縄	2
埼玉	5	三重	2	奈良	2	合計	118

調査項目

- ① 受傷時の状況: 受傷原因、骨折時の家族構成、受傷場所、受傷側
- ② 入院・治療の状況: 入院年月日、退院年月日、手術年月日、骨折型、治療方法
- ③ 機能障害の状況: 骨折前のADL(日常生活動作)自立度、1年後のADL自立度、生命予後
- ④ 合併症: 術前の合併症、骨折既往の有無

回答率と症例の内訳

	発送施設数	回答施設数	回答率(%)
定点観測指定病院	158	78	49.4

	例数 (%)	年齢	範囲
確定症例数	4,183 (100)	78.7±12.6	0~99
男性	870 (20.8)	73.2±15.6	0~100
女性	3,148 (75.3)	80.3±10.4	6~99
不明	165 (3.9)	79.5±13.2	9~99

受傷場所

	人数	%
自宅	1,916	46.8
一般病院	338	8.3
老人保健施設	280	6.8
特別養護老人ホーム	272	6.6
療養型病床群	179	4.4
施設	96	2.3
老人ホームなど	81	2.0
その他	838	20.5
不明	94	2.3
回答合計	4,094	100.0
記載空白	89	(2.1)

### 退院先

	人数	%
自宅	1,948	49.3
療養型病床群	690	17.5
特別養護老人ホーム	366	9.3
老人保健施設	306	7.8
施設	122	3.1
一般病院	72	1.8
老人ホームなど	72	1.8
その他	128	3.2
不明	245	6.2
回答合計	3,949	100.0
空白	234	(5.6)

### 治療法の内訳

	内側骨折(人数) 1,809名		外側骨折 2,285名	
非手術	103	6.6%	114	5.7%
手術的治療	1,467	93.4%	1,886	94.3%
エンダー釘	1	0.1%	60	3.2%
スクリュー	304	20.7%	18	1.0%
ガンマナール	4	0.3%	397	21.0%
CHS	62	4.2%	1,215	64.4%
プレート	0	0%	0	0%
人工骨頭置換	1,028	70.1%	23	1.2%
人工股関節置換	13	0.9%	0	0%
その他	42	2.9%	158	8.4%
手術法不明	13	0.9%	15	0.8%

### 骨折前のADL自立度

1. 交通機関等を利用して外出する。	1,245	30.2%
2. 隣近所へなら外出する。	1,072	26.0%
3. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	720	17.5%
4. 外出の頻度が少なく、日中も座たり起きたりの生活をしている。	607	14.7%
5. 車いすに移乗し、食事排泄はベッドから離れて行う。	223	5.4%
6. 介助により車いすに移乗する。	165	4.0%
7. 自力で座返りもうつ。	24	0.6%
8. 自力で座返りもうたない。	23	0.6%
9. 不明	36	0.9%
10. その他	4	0.1%

### 骨折後のADL自立度

1. 交通機関等を利用して外出する。	798	22.5%
2. 隣近所へなら外出する。	580	16.4%
3. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	530	15.0%
4. 外出の頻度が少なく、日中も座たり起きたりの生活をしている。	407	11.5%
5. 車いすに移乗し、食事排泄はベッドから離れて行う。	354	10.0%
6. 介助により車いすに移乗する。	367	10.4%
7. 自力で座返りもうつ。	64	1.8%
8. 自力で座返りもうたない。	71	2.0%
9. 不明	363	10.2%
10. その他	11	0.3%

### 大腿骨頸部骨折についての取り組みを

#### I) 予防法

普段の予防的処置の有用性解明

- 1) 転倒予防エクササイズ、2) 踏装具、3) 骨吸収抑制治療薬、4) その他

#### II) 治療法

随治療法各々の臨床的有用性解明

- 1) 治療成績、2) 治療日数、3) 経過、4) 予後、5) その他

#### III) 適切なリハビリプログラムの確立

- 1) 普段の予防的リハ、2) 入院時、3) 通院時、4) 地域医療、5) その他

### 運動器の10年



生き活きと  
自分らしく。

日本整形外科学会